

# 第1回 日本銀行金沢支店跡地あり方検討懇話会

## 議事要旨

### ■日程・場所

日 時：令和5年6月8日(木)14:45~16:15

場 所：金沢東急ホテル 5階 エクセレントルーム

### ■発言要旨

#### (1)事務局からの資料説明

(馬場先委員)

○他行における土地利用の位置づけや、駅からの距離や敷地面積の比較等、金沢支店との違いや共通点を教えてほしい。

(事務局:津田企画調整課長)

○現時点においては比較検証をしていない。次回の懇話会までに調査していきたい。

#### (2)意見交換

(宮下委員)

○金沢には、日本のみならず世界に誇る21世紀美術館はじめ、しいのき迎賓館等、公共の文化施設が多数集積している中で、民間の施設で金沢を発信する施設が少ない。

○これまでの蓄積の上にある新しい今の金沢を見せていく場所や機能ができるとよいのではないか。

○今日の視察でロビー空間が広いことを感じる事ができた。

○まちなかには四高記念館やしいのき迎賓館など開放的な空間があるが、室内で開放的な空間が少ないように感じている。

(渡邊委員)

○雨の日でも楽しめることと、観光客も市民も楽しめる施設が望ましいのでは。

○ロビー空間に迫力を感じた。

○建物は、残して何かに利活用できればいいのではないか。

○例えば、東京駅の周辺に、昔の郵便局をそのまま使った KITTE(キッテ)といわれる建物があるが、他都市の先進事例を参考に検討できないか。

(馬場先委員)

○当該地は、歴史的及び地形的な面で、非常に重要な位置である。

○北国街道沿いであり、中心的な位置である。

○昔から大きな商家が立地していたこと、お城のお膝元であったこと、また惣構の内側であるということ。

○また、土地のレベル(標高)が片町側と比較すると高い。

○これらの地形的位置づけ、歴史的な位置づけを、常に念頭に置いて検討してほしい。

○市民が楽しくにぎわえ、武蔵や金沢駅方面、片町方面へ向かうゲートとなり、かつ品格が

感じられる場とすべきでは。

○建物については、市民のみなが見学でき、その後の活用の方法について想像力を膨らませることができるよう、一定期間は残して欲しい。

(伊藤委員)

○日銀含め、都心軸の沿道建築は、いずれも内外を分断する堅いファサードを持っている印象。

○道と建物の関係性において、例えば、外と内の区分を曖昧にさせていくなど、建物のファサードやプランづくりが重要だと思っている。

○当該地の今後のあり方は、都心軸が変化していく上での一つのモデルになりうると考えられる。

○都心軸の裏通りや、当該地裏手の香林坊にぎわい広場やせせらぎ通りとのつながりも重要だと思う。

○市民や観光客の活動がまちなかに可視化される空間になるとよいと思う。

○プロセスを大事に、市民の方も自分ごととして考えていけるとよいと思う。

(水野座長)

○日本の金融中心ストリートであった丸の内の仲通りは、当該地周辺と同じように多機能化が進んだ経緯があり、参考になるかもしれない。

○当該地周辺が、映画街や繁華街であった経緯も踏まえ検討するとよいかもしれない。

(野澤委員)

○当該地は、上下を合わせて1日 2,000 本以上のバスが往来する場所である。

○例えば、郊外と都心を繋ぐことで都心軸がにぎわい、市民が便利になるとよいのではないか。

○近い将来、自動運転が現実となっていくと仮定したとき、例えば、当該地を活かしたまちなかモビリティハブのようなことができるのではないかと考えている。

(水野座長)

○お城がある地形的に高い方と、武家屋敷街がある地形的に低い方との中間に都心軸が位置するが、これらを、どう結んでいくかが課題と思っている。

○仮に日銀の塀がなくなり、多数の人が往来できるようになった場合、少し下ると武家屋敷街に、少し上るとお城に行けるようになると魅力的だと思う。

(雨坪委員)

○私は、2歳の時から香林坊で育ち、約 60 年間このまちを見てきた一人である。

○昭和から平成にかけ、このまちは大変にぎわい、夜もにぎわう愉快的なまちだったことを思い出す。

○平成 10 年ごろから郊外型ショッピングセンターが次々と出たことによって、ここ数十年の間、まちなかのにぎわいが少しずつ薄れてきた。

○県都金沢の中心である香林坊の再浮上を願い、当該地は重要な場所だと思っている。

○当該地の将来に金沢の中心商店街の今後がかかっていると言っても過言でないと思っているので、ぜひ香林坊に相応しい、複合商業施設が分からないが、施設を作っていただきたいと思っている。

○金沢市へお願いだが、ぜひ早急に土地の取得をしていただきたい。

○覚悟を持って金沢市が前向きに検討していただきたい。

- また、目標やスケジュールを明確にしていきたい。
- 県庁跡地が10年間、しいのき迎賓館になるまでかかった。
- 金沢駅前でも、都ホテル跡地が5年経っても何もならないという状況にある。
- そういうことがないように、設計に何年、着工に何年という明確な目標を立てていただきたい。
- そして、着工までの間、暫定的な利用もできるようにしていきたい。
- 21世紀美術館のサテライトでもいいし、カフェやショップなど、市民に開放された場所として、暫定的に利用されるのもいいのではないかと思っている。
- 香林坊にあうイメージであれば、低層階はラグジュアリーなブランドショップ、レストランや、まちから消えたアミューズメント施設、ファミリー層、若者が、まちなかへの回帰を希望したい。

(水野座長)

- スケジュールや土地の取得の方向性について、事務局から説明はあるか。

(事務局:津田企画調整課長)

- 跡地の利活用の時期等について、説明させていただく。
- 日本銀行金沢支店が駅西地区に移転した後について、日本銀行においては売却手続き等で一定期間が必要となってくる。
- 他の支店の事例を参考にすると、日本銀行の現敷地が処分されるまでの期間は、移転後約3年程度かかっているものと推測される。
- これらのスケジュールを見据えながら、利活用について検討を進めていければと考えている。

(久保田委員)

- 長町地区でも、この日銀の跡地の問題について検討会を発足している。
- 昨年のまちづくりミーティングで、市長にぜひ土地の取得をお願いしたいとお願いしたところ、市長からは、大変興味を持っていると回答をもらったと思っている。
- 中心市街地は高齢化率が高く、10%程高いと思っている。
- フレイル対策も含め、もっと検討していきたいと思っている。
- 長町地区は、商店街と一体とした中でまちづくりがなされなければ発展しないと思っている。
- 長町地区は、日銀跡地の問題について、一生懸命検討したいと思っている。

(砂塚委員)

- 人が大勢集まる、強力な機能を持った施設がいると思っている。
- 金沢経済同友会としては、これまでの金沢市長との意見交換会、あるいは創造都市会議の場で、コンサートや演劇が常時開催されるホール機能を有した施設を核とし、そこに商業や飲食機能が加わった施設を作ってはどうかということを申し上げてきた。
- 近くに、赤羽ホール、市の文化ホール、金沢歌劇座があるが、収容規模からいうと、金沢歌劇座が大、赤羽ホールが小、中というものが今、明確にはないと思っている。
- 中規模のホールというものを作ってはどうかというのが、金沢経済同友会としての考え方である。
- ホール、大・中・小が連携、役割分担しながら、ゾーンとして集客機能を持たせてはと考えている。
- また、空白の期間ができて金沢の中心部が停滞することがないように、プロセスを明確に位置付けて進めていくべきではと考えている。

(徳田委員)

- 当該地は、金沢の都心部のまさに中心部で、都市の心臓部になるべき場所ではないかと思う。
- 金沢の品格を高めていくことが、念頭にならなければいけないと思う。
- 品格、にぎわい、回遊性の3つが、基本的な考え方のキーワードなと思っている。
- できるだけ多くの市民に当該地を見てもらった上で、アンケートを行い、議論を深めていければよいと思っている。

(水野座長)

- 21世紀美術館が、元々附属小中学校があり、誰も入れない場所だったが、今となっては、まちに開かれ、自由に出入りできる場所となり、そして活力が生まれている。
- 当該地においても、都心のど真ん中だからこそ期待したいと思う。

(松永オブザーバー)

- 歴史的な背景を踏まえると、重要なまちのクロスポイントだと思った。
- 一つの機能ではなく、様々な機能のハブ(結節点)の役割を持たせる必要があるのではと感じている。
- 観光客は金沢の表面的な部分しか見ていない。彼らが3日滞在・3回訪問するためには金沢の生活文化を表出していくことが大事なのではと考えている。
- 全国の事例も含めてご紹介させていただき、問題提起させていただきたいと考えている。

(事務局:村山市長)

- にぎわいというキーワードについて、誰にとつてのにぎわいとすべきか、ご意見を頂きたい。
- 市民と観光客、どちらかに焦点をあてるのか、両方をターゲットに、結果的にまちなかや商店街のにぎわいにつながるあり方がよいのかお聞きしたい。

(宮下委員)

- 金沢の人たち自身が楽しめるものが、結果、観光の資源となるのが一番理想的では、と考えている。
- 金沢の食文化に関しては、既にそういう状態が起きているように感じているがそれ以外の文化でも発信できるものがあるはず。
- 観光の形態も、より深く地域を感じ楽しむ方向に大きくシフトしている。
- 観光のために何かを行うのではなく、市民に定着した日常的な文化そのものが豊かさを増し、その素晴らしさを観光客が楽しむようなあり方が理想ではないかと考えている。

(水野座長)

- 金沢は、都心に兼六園周辺文化の森を持っている。
- そこには、美術館、博物館、劇場ホール、記念館等、様々な文化芸術施設が位置している。
- 日本で都心に水と緑の庭園があつて、そこに文化芸術施設が集積し、かつ、歴史資源も数多く残っている都市は、ほとんどないと思っている。
- 唯一、上野の文化の森くらいではないかと思う。

- 上野は、国家的プロジェクトでできあがっているが、兼六園周辺文化の森は、県と市と民間が、それらを形作ってきた。
- そこは、文化や歴史の舞台としてできているが、市民が文化活動をどこで研鑽しているかという、別の場所ではないかと考えている。
- 例えば、本市には、金沢市民芸術村がある。
- 先週 25 年賞を受賞したが、創立当時から変わらず利用率が高く、市民に愛される施設である。
- 文化の営み、研鑽を続けられる、そのような機能が、集客力のある香林坊に立地し、市民の目に触れていく場となるとしたら、結果、観光客の増加にも、市民の成長にもつながるのではないかと考えている。

(馬場先委員)

- 市民が重要だというのは、皆さんと考え方は一緒である。
- 大都市と異なり、金沢は街の中心部でも住宅地が隣接している都市である。すぐ裏側に普通の住宅があるにも関わらず、観光客を主体にまちを作っていくということは、あってはならないと思っている。
- 市民が集まれる場であってこそ、その地域の良さが出る。
- 観光客は、どちらかと言ったらそこに混ぜてもらって、そうした感覚で考えるべきだと思っている。

(水野座長)

- 引き続き、第2回、第3回に向けて考えていただき、意見をお持ちいただきたいと思う。

－ 以 上 －